

井尻公民館だより

(2024年1月1日発行)

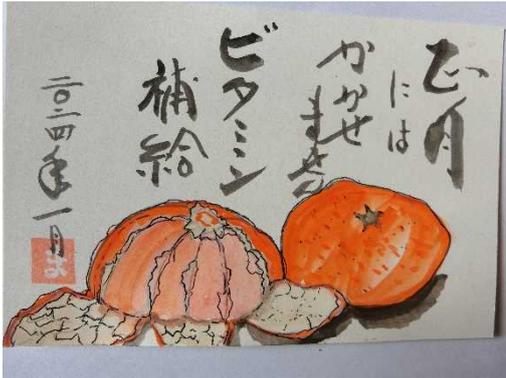
<令和6年1月号>

(第238号)

<連絡・問い合わせ先> 館長 窪田 道忠 ()
主事 相澤陸奥実 ()

水仙や白き障子のとも移り

松尾芭蕉



新年

あけましておめでとう
ございます

本年も宜しく
お願いいたします

絵手紙愛好会 須田玉枝

昨年中も激動の年でした。世界では歴史の背景から起こっている、人間同士の争いが、無差別的、悲劇な、多くの生命が失われています。残念に堪えません。早く終結する事を祈り願うものです。

清水寺で恒例である一年間を一文字で表す漢字は「税」でした。

昨年10月からインボイス制度導入され、税務当局からの鋭い税の明確化が始まりました。その矢先、自民党の政治資金パーティーを巡る裏金疑惑が発生し、東京地検特捜部が、積極的捜査を進めています。庶民の税は明確化されている中で国会議員はどうなっているのでしょうか。

コロナも「5類」に変わり日々生活行動にも豊かさが戻った感じですね。

公民館に於いても、少しですが活動が戻りつつあります。定例で行っている、各愛好会の皆さんも、元気で活躍中です。今年も公民館を宜しく願いいたします。

花いっぱい運動

市の補助事業、花いっぱい運動で、プランターに植栽しました。春と秋に分けて行っています。



生涯学習推進大会

「童謡フェスティバル～ひびけ山河～みんなの歌声～」(合唱発表)

コロナで中止されていた「童謡フェスティバル」が4年ぶりに再開する事となりました。

コロナ禍でコミュニケーションが薄れて来てしまっており難しい事も有ると思いますが、「5類」となりイベント等が行われるようになってきました。

公民館活動の一層の活性化と地域住民のふれあいや親睦・融和の促進の向上を図ることとしています。

当公民館も参加いたします。そのための合唱練習を行ないます。つきましては、多くの皆様のご参加をお願いいたします。

練習日 1月27日(土) 午後7時～
 2日 3日(土) 午後7時～
 2月10日(土) 午後7時～

場所 井尻公民館 2F ホール

内容 曲目はまだ決まっておりませんが、童謡・叙情歌・唱歌となります。



豆知識

「ジェンダー平等」

2015年に国連のサミットでSDG s（持続可能な開発目標）

世界で広がる貧困・格差・地球環境の危機を克服し「持続可能な社会・経済・環境」を目指す目標で、2030年に向けて大きく分けて17の内容を掲げています。

最近、皆さん、ジェンダー平等という言葉聞くことがあると思いますが、ジェンダーとは「性別」の意味です。

今の社会では男性の役割・女性の役割など、個人ではなく「性別」によって生き方や働き方が決められしうことがあります。

「ジェンダー平等」とは性別に関わらず、平等に責任や権利や機会を分かち合い、あらゆる物事を一緒にきめてゆくことを意味しています。

そこで、世界中で法律や制度を変えたり、教育やメディアを通じて意識を高める活動を行うことで、社会的・文化的作られた性別を問い直し、全ての人の人権を尊重し、責任を分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮する事ができる、社会づくりのための取り組みが行われております。

また、「女性だから」という理由で、直面する壁を取り除き、自分の人生を自分で決めながら生きるための力を身につける取組も行われております。

ジェンダー平等を実現しよう、これは17の中の5番目項目になっています。日本のジェンダー平等に関する状況は（2021年）完全平等100点満点とした時、アイスランドがトップで89点、日本は66点で、世界156か国中120位、日本の悪い分野は、女性の経済参画・政治参画が少ない、企業での管理的職業者がいない、政治では活躍者がいない、最近では、副大臣が男性ばかりで問題になっているのが現状であります。

歴史的に当たり前が続いて来た事柄であるが、これからの時代、意識し、常に心がけて実行できる行動に年齢関係なく過ごしましょう。

マークの意味



女と男 のマークのまるを重ねる、丸の内はイーコルのマークで平等を表現

(川柳) (井尻公民館川柳愛好会) 2023/11/24

小粋だね紅絞りの帯締めて
紅をさし女の夢を追い続け
旅出ちに思いを込めて紅をさす
紅白は見てもわからぬ人と歌
ホラここに口紅の跡なぞめいて
紅葉を見に行きあとは満腹に
紅葉狩心浮き浮き散歩道
口紅とシャネルのバッグでまだいける

(久保 晃)
(田辺たみ子)
(古屋典子)
(雨宮江身子)
(石垣まさ子)
(中村廣一)
(関口正次)
(飯島武志)

(俳句) (井尻公民館俳句愛好会) 2023/12/10

寒造り立てて竹馬の友を待つ
悴む手包みて母を送り出す
百年の駒岳透く水や寒造
休戦も悴む心癒しえず
山裾の悴むごとき陽も果てり
住職の読経にはかに悴めり

(飯島武志)
(飯島和子)
(増田英仁)
(小林昂平)
(鶴田光子)
(三柵 淳)

(短歌)

歳末の干し柿作り空っ風で
百匁柿など早々乾く
(古屋和子)

大根や白菜ねぎも収獲し
冬の食卓野菜を楽しむ

(久保 晃)

数々の病を背負い日々富士を
眺め暮らせり静中の動

木枯しの吹き始める日道に立つ
吾の来たりし道を見つめて